

---

## 研究活動報告

---

### 2013年京都国際地理学会議 IGU 京都地域会議

国際地理連合の2013年京都国際地理学会議 (International Geographical Union 2013 Kyoto Regional Conference) が2013年8月4日～9日にかけて京都市の国立京都国際会館で開催された。IGUは、地理学に関する世界最大の組織であり、第1回国際地理学国際会議は1871年にアントワープ(ベルギー)で開催され、その後1922年にブリュッセル(ベルギー)で開催された大会で恒久的な組織の設立を決定・正式に発足し、現在は約100ヶ国が加盟しているものである。IGUは4年に一度国際地理学会議 (International Geographical Congress) を開催し、その中間年に地域会議 (Regional Conference) を行ってきた。今回の地域会議は、2011年にサンチャゴ(チリ)で開催された地域会議、2012年にケルン(ドイツ)で開催された第32回国際地理学会議に続くものであり、「地球の将来のための伝統智と近代知」(Traditional wisdom and modern knowledge for the earth's future) がメインテーマに掲げられた。

まず、大会開催初日となる8月4日には楊逸氏の特別講演「地球環境と言葉」及び「ジオパークから学ぶ日本の自然と文化」と題された7名によるパネルディスカッション形式の講演会からなる市民公開講座が開催された。8月5日から8日までの4日間には、3回の特別セッション、221のIGUコミッションが主催するセッションを中心として、日本における地理学系の主要学会や日本人が代表者を務める研究グループが組織するジョイントセッション及び一般セッション等、合計約350のセッションとポスター報告を通じて、約1200の報告が行われた。なお、特別セッションについては、本会議のメインテーマにちなみ3つのサブテーマ(伝統智、環境、東日本大震災)について3名ずつ計9名のゲストスピーカーの基調講演が行われた。これらの基調講演の内容は英文図書として刊行される予定である。

4日間に渡る研究報告期間中に、69ヶ国の大学・研究機関、国際機関、政府機関、NGO等から約1600名の参加があり、当研究所職員からは以下の報告が行われた。

"The fertility contribution of foreign women to Japan"

Masakazu Yamauchi

"Methods and results of regional population projections for Japan conducted by the National Institute of Population and Social Security Research"

Toru Suzuki, Shiro Koike, Masakazu Yamauchi, Keita Suga, Masahiro Kishi,  
Hachiro Nishioka, Yuji Esaki

(貴志匡博記)

### アクティブ・エイジング検討会 ヴェトナム調査

厚生労働省では、大臣官房国際課国際協力室の主幹で、今年度「Active Aging (活動的な高齢化)における日本の貢献に関する検討会」を行っている。これは、高齢化が今後日本よりも速いスピード